

令和 3 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	60	学校名	茨城県立取手松陽高等学校			課程	全日制		学校長名	瀧ヶ崎 宗 夫						
教頭名	箕 輪 文 子								事務室長名	古 澤 洋 子						
教職員数	教諭	42	養護教諭	1	常勤講師	1	非常勤講師	43	実習教諭、実習講師、実習助手	1	事務職員	3	技術職員等	4	計	98
生徒数	小学科	1年		2年		3年		4年		合計		合計 クラス数				
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通科	78	79	71	85	64	92			213	256	12				
	美術科	5	26	4	18	5	25			14	69	3				
	音楽科	3	3	1	17	7	19			11	39	3				

2 目指す学校像

学校・家庭・地域社会と緊密な連携を図りながら、教職員と生徒が協働して全ての教育活動に積極的に取り組み、明るく活力ある学校を目指す。具体的には、全日制普通科・美術科・音楽科を併せ持つ学校の特色を活かし、生徒の「生きる力」の育成と本校発展のために、教職員が明確な目標を持ち、教育実践の充実を図る。

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習や授業における生徒の学習の取組に受け身の態度が見受けられる。 現在の学習に追われ、進路等の将来を見通した学習が遅れ、計画的な学習が達成されていない。 授業や課外等が単調になりがち傾向にある。 	<ul style="list-style-type: none"> 土曜開放学習会の内容の充実や課外授業等を通し、自主学習を定着させる。 公開授業の実施など、授業研究を充実し、指導法の研究や授業内容の改善を図り、教員一人一人が魅力ある授業を確立する。 思考力・判断力・表現力を高める授業を充実させる。

別紙様式 1 (高)

進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・大学進学希望者が約 60%であり、組織的な進路指導の推進と一般入試で合格できる学力の育成を目指している。 ・生徒の目標とした進路を主体的に考えさせ、キャリア教育の充実と情報収集に努力している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3年間を見据えた進路指導を学校内で共有し、キャリア教育を取り入れ、各学年に応じた指導の強化を図る。 ・保護者の理解と信頼を得るための進路情報提供の徹底や連携の強化に努める。
生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> ・交通事故や特別指導の件数が少なく、全体的には落ち着いた雰囲気である。日常生活での挨拶や服装・遅刻指導などの規律ある生活態度の育成や携帯・スマホの適切な使用法の徹底などに努めている。 ・家庭環境の多様化に伴い、関係機関や諸団体との連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶、きちんとした制服の着装、遅刻防止を重点項目として指導する。 ・携帯・スマホのマナー等を徹底する。 ・登下校時の危険箇所の発見と事故の未然防止に努める。 ・家庭・近隣高校、中学校・警察や児相等との連絡・相談等の連携を密にする。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・地域イベント等への積極的な参加を奨励している。 ・コロナ禍の中、いくつかの学校行事が縮小・中止になったが、工夫することにより活動内容の充実を図っている。 ・部活動加入率（68%）の向上と部活動の活性化に努めている。 ・ホームルーム活動において生徒一人一人の豊かな心を育む教育に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣の地域社会にも目を向けて、校内に限らず、校外での奉仕活動を行う。 ・文化祭やクラスマッチ等を通して生徒会や各種委員会の活動を活性化させる。
保健・厚生	<ul style="list-style-type: none"> ・保健・安全教育の充実を目指した指導を行っている。 ・保健室の利用が減少しており、生徒の自己管理能力が向上していると思われる。継続して取り組みたい。 ・ボランティア活動を通して豊かな人間性の育成を目指す指導を行っている。 ・感染症対策のため、一層の清潔な学習環境の整備と充実に努めている。 ・防災や危機管理のための環境を整備している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・メンタル面で課題を抱えている生徒に対する理解を深める研修会を実施する。 ・校内一斉清掃を実施して愛校精神・助け合い・友情を育成する。 ・生徒の健康情報等を共有して、教職員間の連携を図る。 ・校内の危険箇所の発見と整備に努める。 ・災害に備え、緊急時の体制や整備に努める。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・教員により勤務時間に差があるが、1ヶ月の職員の平均超過勤務時間は50時間33分である。（昨年10月調査） 	<ul style="list-style-type: none"> ・職場環境や勤務時間を改善し、働き方改革を進める。

別紙様式 1 (高)

4 中期的目標

普通科・美術科・音楽科を併せ持つ特色ある学校として、すべての学科の生徒が主体的に行動し、崇高な職業観を持ち、進路目標が実現できる進路指導の充実と、創造性と幅広い人間性を育む明るく活力のある学校づくりを目指す。

- ① 地域の信頼と期待に応えるとともに、より開かれた学校づくりを目指す。
- ② 普通科・美術科・音楽科を併せ持つ学校の特色を活かし、全ての生徒が本校の教育環境を活用して、芸術性やたくましく豊かな人間性を育み、広く社会に貢献できる生徒の育成を目指す。
- ③ 教職員の専門性や教科指導の充実を図り、職員一人一人がそれぞれの立場で学校運営に積極的に参加することで、信頼される学校を目指す。
- ④ ICT の活用による業務の効率化等で生まれる心身の余裕を、生徒の指導に生かせるように働き方改革を推進する。

5 重点目標

重点項目	重点目標
基本的な生活習慣（コロナ感染症対策の対応を含む）と学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none"> ① With コロナの状況下で、生徒・保護者・ご家族・職員の安心安全を確保しつつ、「学びを止めない」方策を試みる。 ② 朝の交通指導と登校指導の充実を図り、挨拶・遅刻指導、端正な制服着用を含めた生徒指導を徹底する。 ③ 毎日の授業を大切にすると同時に、家庭学習習慣の徹底を図るため、保護者の理解と協力を得るように努める。
ICT の活用を含めた学習による学力向上と主体的な学びの育成	<ul style="list-style-type: none"> ④ ICT を活用した授業研究や職員研修を充実させることより、ICT を活用して学ぶ場面を効果的に授業に取り入れ、生徒の学力向上を図る。 ⑤ 積極的に課題や小テストを活用することで、家庭学習の時間を増やし、自主学習の習慣を定着させる。 ⑥ 年間を通して個別面談を計画的に実施し、進路について主体的に考える力を身に付けさせる。
国公立大学や難関私立大へ挑戦する進学対策の確立	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 受験対策を充実させ、国公立大学合格者数延べ5人、私立大学合格者数延べ120人を目標とする。 ⑧ 進路講演会や高大連携などの取組を拡大し、生徒の進学意欲を高める。 ⑨ 土曜日開放の内容充実やきめ細かい課外指導等により、一般入試で合格できる学力を育成する。 ⑩ 三年間を見通した体系的な進路指導の確立と、新しい学力観に対応した指導法の研究を図る。

別紙様式 1 (高)

<p>特別活動・部活動の活性化による学校生活の充実</p>	<p>⑪ 部活動加入を働きかけ、加入率 70%以上を目標とする。</p> <p>⑫ 地域行事への参加や地域の施設などと連携し、奉仕活動や体験活動・国際交流を積極的に推進する。また、学校HP、スクールガイド等を用いて情報発信を充実させる。</p> <p>⑬ ホームルーム活動や学校行事及びボランティア活動等を充実させることで、自らを振り返り、将来を考え、自分の成長を認識できるようキャリアパスポートを活用する。</p>
<p>働き方改革の推進</p>	<p>⑭ ICT の利活用による業務の効率化、資料等のペーパーレス化を推進することにより、教職員の業務改善を促す。</p> <p>⑮ 部活動の活動の質を高めることで活動時間を短縮し、生徒・職員の負担を軽減する。</p>